

難太平記 上

U 5
2758
1



門 研 子
2758
1-2



明治二十一年四月廿四日
藤野 漸
氏書



校正難太平記序

難太平記者實今川伊豫守源貞
世之所作也而人多以為野人借
名之書比閱藤宣胤卿記始知斯
編蓋憾太平記多謬誤而作也好
古之士其不可不讀矣貞世難髮

藤原康氏遺愛記



難太平記



雒陽書肆柳枝軒藏版



名了俊初與父範國共從源將軍
尊氏數有戰功而歷仕義詮義滿
義持當於細川清氏之叛範國獻
策義詮欲及其未大使貞世刺之
且範國意以駿河傳貞世貞世不
肯終使兄適子氏家嗣氏家死貞

世又以其弟泰範承統於戲忠義
萃於一門足以愧殺亂賊之徒矣
予欽其為人恐遺編湮滅或不傳
於是以此

相公藏本校正訛謬茲鏤於梓以垂
不朽

貞享丙寅二月既望

水戶府下力石忠一序



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '世又' and '其'.

校正難太平記凡例

一凡舊本無篇目今摘大意冠各段首庶使_{ハシ}人_ラ易_シ覽_ス也

一凡舊本人物稱謂書其官其氏而不載其名間有註者不能悉備今考系圖古記等註名于其下而以按字別之

一凡舊本有可疑者姑存之註臆見于其下以俟是正

一 難太平記總目
 一 此書編集不拘次序如下以尊氏退於
 九州置於篠村八幡宮願書前之類
 也今從舊本
 不致改正
 一 人可知己先祖事
 一 神代唯有二人子事
 一 八幡太郎義家子孫取天下事
 一 今川家系譜事
 一 寄進今川莊於正法院事

難太平記總目

一 此書編集不拘次序如下以尊氏退於
 九州置於篠村八幡宮願書前之類
 也今從舊本
 不致改正
 一 人可知己先祖事
 一 神代唯有二人子事
 一 八幡太郎義家子孫取天下事
 一 今川家系譜事
 一 寄進今川莊於正法院事

- 一 尊氏直義產湯時有奇瑞事
- 一 尊氏上洛於三河有奇瑞事
- 一 太平記多謬事
- 一 從尊氏九州退陣人數漏於太平記事
- 一 尊氏篠村八幡宮願書時事
- 一 可入太平記落書事
- 一 範國所持太刀號八八玉事
- 一 細川今川異見事

- 一 今川賴國討死事 附基氏子事
- 一 青野原合戰事
- 一 富士淺間神女託宣事
- 一 貞世辭駿州事
- 一 範國欲使貞世勅清氏事
- 一 清氏野心冰實事
- 一 鎌倉管領氏滿謀叛事
- 一 貞世被止九州探題仔細事 附貞世隱居事

- 一 大内義弘謀叛時勸貞世事
 一 追加 三條

已上總計二十三條

難太平記總目終



難太平記上

人可知已先祖事

愚カナル身ニハ。己ガ心ヲダニ知ヌナルベ
 シ。譬バ惜キ欲キ惡シ最惜キナド思フヲ知
 ザルニハ非ス。箇様ニ覺ル心ハ何ナル者
 ト知ベキヲ申スナリ。又ハ己ガ親祖父ハ何
 ナリシ者何許ニテ世ニ在ケルブト知ベキ
 也。人ノ事ハ知侍ス。我身ニテ思ニ。我父ヨリ

先ノ事ハ一切知ザル也。自故殿按稱故殿又
了俊父範國法名ノ昔物語ナド故入道殿者ニ給シ次ニ。
 心省下皆倣此。片瑞仰セラレシ事ノ。今僅ニ覺ル許ヲ申ス
 ベシ。是ヲ思フニ。我子共孫共ハ。更ニ父カ企
 停ヲタニ知ベカラズ。昔山名修理大夫時氏
 ト云シハ。明德ニ。内野ノ軍ニ討レシ。陸奥守
 接氏衛氏カ父ナリ。其ガ常ニ申セシハ。我子孫ハ
 疑ナク朝敵ニ成又ベシ。其譚ハ我ハ建武ヨ

リ以降ハ。當御代ノ御陰ニテ人ト成ヌレバ。
 元弘ヨリ以來ハ。只民百姓ノ如ニテ。上野ノ
 山市ト云云ニ侍シカバ。渡世ノ悲サモ。身ノ
 程モ知ニキ。又ハ軍ノ難儀ヲモ思知ニキ。去
 ハ御代ノ御恩ノ忝事ヲモ知。世ノ栖違モ且
 辨ヘタルダニ。今ハ動ハ上ヲモ疎ニ思タリ。
 人ヲモ鄙ク思ニテ知ヌ。子共ガ世ト成テハ。
 君ノ御恩ヲモ親ノ恩ヲモ不知。已ヲノミ光

シテ過分ニノ三成ユクベキ程ニ我意ニ任
セタル故ニ御不審ヲ蒙ベキ也ト子息共ノ
聞所ニテ申シキ。按ノ如ク御敵ニ成シカバ
昔人ハ箇様ノ大姿ヲバ心得ケルニヤ。去バ
此人。一文不通ナリシカドモ。能申シケルニ
コソ。去バ我身ニモ故殿ノ常ニ仰セラレシ
毎ニ其世ニハサマデ能事トモ不存剩鈍様
ニモ思シヲ。今思合レバ。一トシテ理ナラズ

ト云事ナシ。我身今菴ヌレハ。子共ニモ産ル
子ノ如クニ思レタレドモ。無シ跡ニハ定テ又
思知ベキ也。其爲ニ父ノ語給シ事ノ端々ヲ
書付侍也。是モ僻覺多カリヌベキヲバ皆略
シタリ。慥ニ覺ヘ又支證分明ノ事許ヲ申ス
也。

神代唯有一人子事

神代ニハ唯一人ノ子ナリケメ共。其子孫様

唯一人ノ子ナリケメ共。其子孫様

様生レモテキテ。其末^ス。或^ハ八國王大臣。或ハ
民百姓ト成ヅカシ。鄙ク世ノ為無益ノ人ハ。
田ヲ作^ル人ニ仕ヘナドセシヨリ姓ナキ者ニ
成キタリケリ。今モ我等ガ事ハ。僅ニ父ノ代
バカリコソ知侍レ。二三代ノ祖ノ事ナドハ
一切知子バ。終ニ我子孫ハ。必^ニ定姓ナキ民ト
同シ者ニナリヌベシ。去バ令僅ニ聞得タル
片端バカリ書付ル也。

八幡太郎義家子孫取^ル天下事
八幡殿トハ。義家朝臣陸奥守鎮守府將軍ノ
御子義國ヨリ。義康。義兼。義氏。泰氏ナドナリ。
按^ニ義家ハ於^テ八幡宮前^ニ元服^シ號^ス八幡
幡太郎^ト名^ニ義國以下五人^ニ未^タ考^ス泰氏ヲ平石殿
ト申^レキ。其御子ニ頼氏治部大輔殿ト申ス。
其御子ニ家時伊豫守ト號ス。其御子ニ貞氏
讚岐入道殿ト申ス。其御子ニテ大御所錦小路殿
按^ニ尊氏稱^シ大御所直義
稱^ス錦小路殿ト皆倣^ヒ此ハ渡セ給ナリ。頼

氏ハ平石殿ノ三郎ニ當セ給シカドモ御當
家ヲ續セ給キ尾張ノ人。澀川ナドハ兄ナ
リシカドモ皆庶子ニナリキ。按泰氏嫡尾張
守家氏斯波氏
元祖二男義顯、澁川細川畠山ナドハ義兼ノ
氏、元祖皆賴氏兄弟。御下ヨリ別レタルニマ。抑義兼ハ長八尺餘
ニテ力人ニ勝給シナリ。實ハ爲朝ノ子也シ
ヲ。義康襁褓ノ上ヨリ養キ世ニ憚テ人ニ隱
シ給ケレバ終ニ知人ナシ。賴朝右大將ニハ

殊更近付給シカバ猶世ニ憚テ空キ狂ニ成
給ヒテ其代ハ無爲ニ過給シカバ我子孫ニ
ハ暫靈ト成テ狂事御座ベシト仰セケルト
申傳タリ去バ又義家ノ御置文ニ云我七代
ノ孫ニ我生變テ天下ヲ取ベシト仰セラレ
シハ家時ノ御代ニ中タリ尚モ時不來事ヲ
知シ召ケレバニヤ。八幡大菩薩ニ禱申シ給
テ我命ヲ約テ三代ノ中ニ天下ヲ取シメ給

トテ。御腹ヲ切給シ也。其時ノ御自筆ノ御置
文ニ仔細ハ見シナリ。正ク兩御所按指尊氏直義ノ
御前ニテ。故殿モ我等ナドモ拜見申シタリ
シ也。今天下ヲ取事唯此發願ナリケリト。兩
御所モ仰セ有シナリ。如此一代ナラズノ御
志ニテ世ノ主ナリ給タルヲ我等ガ先祖ハ
當御所ノ御先祖ニハ兄ノ流ノ由寶篋院殿
按將軍義詮號寶篋院下皆倣此ニ申サレテ。系圖ナド御目

ニ懸ラレタル人アリキ。御意大ニ背テ後ニ
人ニ御物語アリシニヤ。増テ天下ヲ取セ給
テ後ハ日本國ノ人誰カハ此御恩ノ下ナラ
ズ人アルベキ一族達ナドハ殊更今ハ謙テ
然ルベキ事ナリ。家ニ因テ身ヲ立ベシト努
カ思ベカラズ。文道ヲ嗜テ。御代ノ御助トナ
リテ。其徳ニ依テ立身スベシト。朝夕錦小路
殿仰セアリキ。此事ハ直冬武衛慈恩寺殿宮

内大輔ト申ス比畠山大藏少輔直宗一色宮
内少輔直氏我等撫ニ御教アリシ事人モ少
ク承及ビシニヤ。

今川家系譜事

我等が先祖ノ事ハ義氏按足利左馬頭正四位下母北条平時政
女ノ御子ニ長氏上總介ヨリ吉良トハ申ス
ナリ其子ニ滿氏按上總介滿氏ノ弟ニ國氏ト云
シヨリ今川トハ申スナリ貞義上總入道法名

省觀按吉良滿一男ト我等が祖父ノ基氏按今川國氏
國父トハ從兄弟ナリ吉良滿義右兵衛督按貞義
義一ト故入道殿心省前見ハ三從兄弟ナリ關
口入野木田等ト云人ハ國氏ノ子共ニテ
我等が祖父基氏ノ弟共ノ末ナリ故殿ノ御為
ニハ從兄弟ノ子共ナリ今川ヲバ基氏ハカ
リ相續ナリ關口ハ母方小笠原ニテ其方ヨ
リ授り得タルナリ入野藝州ハ三浦大多和

ノ人ト云ハ母方ニテ一分授リ得テ入野トハ申也。今川ノ川端ノ人ト云ハ此ノ事也。基氏ノ御妹數多御座ニシテ。皆公家重縁ニ成シカバ。其子共ヲ今川ノ石川トモ云。名兒耶トモ云ナリ。是ハ基氏ノ御養子ナリシカハ。故殿ノ御為ニハ連枝也。仍テ建武ノ比。御所按將軍尊氏時ニ申シ入給テ御一流トナリキ。伊勢國ニ蘇我ト云所ノ領家モ。基氏ノ妹婿ト

カヤ暲及ビシナリ。石川三位公ト云シ。父ハ法師宮ノ子ナリ。一色少輔太郎入道ノ父按一色大夫源公深ハ。山臥ニテ育シヲ。基氏姉婿ニ取リ間。故殿ニハ伯父ニテ。一色入道ト故殿ハ從兄弟ニテヲハシマシキ。

寄進今川莊於正法院事

今川莊ヲバ左馬入道按義氏法名正義ノ御時ヨリ。長氏前見ノ少年ノ御時ニ。裝束料ニ賜

シヲ。吉良莊總領進退タルベシト沙汰アリ
レ故ニ。基氏見不快ニ成給シニヤ。故殿ノ御
代ニ。省觀上總入道見合體アリテ。父子ノ契
約ヨリ違亂止キ。按吉良令了俊授得ル間相
續ナリ東福寺ノ佛海禪師ハ了俊ガ師ナリ。
仍テ彼塔頭正法院ニ永代寄進申ス也。此和
尚ハ我等ガ先祖今川一名此所知行セシ始
ヨリ。政所ニテアリシ高木入道ト云シ者ノ

伯父ニテヲハセシカバ。傍々好見アリシ上
ニ。我七世ノ父母ノ菩提ノ為ニ永代寄進申
シキ。然トイヘドモ。或ハ子孫ノ中ニ。此名字
ノ地大切ニ存ズル者アラバ。此所ヨリハ土
貢モ多ク愉ナラン私領ニ。公方ニ申シテ替
ベシ。宜クハ塔頭ノ隨意タルベキナリ。此草
子ヲ支證トシテ申スベキ也。
尊氏直義産湯時有奇瑞事

准八下記上

〇九

大御所ノ御事ヲ申ツルニ書落間追テ申也。
大御所御産湯召ケル時山鳩二飛來テ一ツハ
左ノ御肩先ニ居ル一ツハ杓ノ柄ニ居ケリ。錦
小路殿御産湯ノ時ハ山鳩一來テ御杓ノ柄
ト湯桶ノ端ニ居タリケリ。前代按日北條相
模守平高時
代ノ世ニ憚テ其時ハ被露無リケリ。當御代
ニ御年比ノ人々モ申シ出スニヤ。
尊氏上洛於三河有奇瑞事

元弘ニ御上洛ノ時不思議ノ事アリケリ三
河國八橋ニ御著ノ時御前無人數ノ夕ニ白
衣被キタル女一人參テ云御子孫惡事ナク
ハ七代守申スベシ其支證ニハ每度合戰ニ
出給時雨風ヲ以テ示シ申スベシト云テ夢
如ニ失ニケリソレヨリシテ必至ト御謀叛
ノ事思召定メテ上杉兵庫入道按兵庫頭藤
憲房入道
勤尊氏母ヲ御使トシテ先吉良上總禪門按
吉
清子兄ヲ

良源貞ニ仰セ合サレシニ。御返事ニ云。今迄
 義見前ニ仰セ合サレシニ。御返事ニ云。今迄
 遅クコソ存ジ候ヒツレ。最目出度候ト云。其
 後人々ニモ御談合アリケリ。此事關東御立
 ノ時ヨリ。内々上杉兵庫入道ハ申レ勸ケル
 ニヤ。家時貞氏共ニ見此兩御所按云家ノ御造
 意ヲ大方殿按云ノ上杉バカリニ仰セ聞セ
 ラレケルトカヤ。是ニ依テ殊更此人骨ヲ折
 テ。河原合戦ニ討死シケルトカヤ。今上杉中

務入道按中務少輔朝宗ノ祖父ナリ。

太平記多謬事

六波羅合戦ノ時。大將名越按尾張守討レシ
 カバ。今一方ノ大將足利殿按云高家先皇按後醍醐帝
 ニ降參セラレケリト。太平記ニ書タリ。返
 無念ノ事也。此記ノ作者ハ宮方深重ノ者ニ
 テ。無案内ニテ概テ如斯書タルニヤ。是又尾
 籠ノ至ナリ。最切出サルベキヲヤ。總テ此太

平記ノ事。誤モ空言モ多キニヤ。昔シ等持寺
ニテ。法勝寺ノ慧珍上人。此記ヲ先三十餘卷
持參シ給テ。錦小路殿ノ御目ニ懸ラレシヲ。
玄慧法印ニ讀セラレシニ。多ク虚事モ訛モ
有シカバ。仰ニ云。是ハ且ク見及ブ中ニモ。以
外違目多シ。追テ書入又切出スベキ事等ア
リ。其程外聞アルベカラザルノ由仰セアリ
シ後ニ中絶也。近代重テ書續ケリ。次ニ入筆

共多ク所望シテ書セケレバ。人ノ高名數ヲ
不知ト云リ。去ナガラ随分高名ノ人トモ。唯
勢揃計ニ書入タルモアリ。一向略シタルモ
アルニヤ。今ハ御代重往テ。按了俊著此書時、
已四代將軍義持、此三四十年来ノ事タニモ。跡形モナキ
事ドモ。我意ニ任セテ申スレバ。哀シ其代
老耆ドモノ在世ニ。此記御用捨アレカシト
存ズルナリ。平家ハ多分後徳記ノ慥ナルニ

テ書タルナレトモ。ワレダニモ。少く違目ア
リトカヤ。増テ此記ハ。十カ八九ハ作事ニヤ。
大方ハ違ベカラス。人々ノ高名等ノ偽多カ
ルベシ。正ク錦小路殿ノ御前ニテ。玄慧法印
談シテ。其代ノ事トモ旨ト彼法勝寺上人ノ
見聞給ヒシニダニ。如斯虚言アリシカバ。唯
押テ難シ申スニアラズ。

從尊氏九州退陣人數漏於太平記事

九州へ御退ノ時ノ事。御供申シタリシ人モ。
多ク太平記ニ名字不入ニヤ。子孫ノ為不便
ノ事歟。如此事ハ。諸家ノ意見書ナドニテモ
記レタキ事ナリ。總如此事ハ。誅アル事ナリ。
夢想記ト號シテ細川阿波守氏和註シタル
物モ。サラヌヤウニテ私曲アルトコロ。其代
ノ人々ハ語レシガ。九州ヨリ御上洛アリテ。
所々ノ戦ニモ高名漏サレタル人多キ由申

スメリ。

尊氏篠村八幡宮願書時事

丹州篠村八幡宮ノ御前ニテ。御旗揚給ヒシ
 ニ。御願書ヲ引田妙源按引田或作匹壇引或作蟾源或作玄不知何
 是書シトハ見ヘタリ。同時ニ。兩御所按尊氏直義
 ノ御上矢ヲ一ツ、神前ニ進ゼラレシニ。役
 人二人アリケリ。一人ハ一色右馬助。一人ハ
 今川中務大輔也。此事ハ仔細アル事ニテ。口

傳ナキ人ハ誤モアルニヤ。此事ナドハ尤書
 入ラレテ氣味アルベキニヤ。此中務大輔ト
 ハ我等ガ兄ノ範氏按從四位下上總介正和五年生範國子貞世兄
 ガ事也。

可入ニ太平記落書事

今川ニ。細川ソヒテ出ヌレハ。堀口キレテ新
 田流ル。撫云落書モアリケリ。按此落書新田足利有隙
 以後事也。平家ニモ。赤符白手拭ニ取替テ。頭
 不續前段。

ニシマク小入道カナ。按此落書前代鎌倉

比興ノ事モアレハ。是モ書加タラマシカバ。

此人ノ子孫ノ為面目ナラマシ。細川ハ卿

公。按細川宮内卿律師定禪ノ事也。

範圍所持太刀號ハハ王事

其比大御所。按尊氏九州上洛已後事也。ハ東寺ノ御陣ナ

リ。先皇ハ山門ニ御座ナリ。四方ノ口ハ宮

方ヨリ開シカバ。味方兵糧難儀ニテ。東ハ關

山。阿彌陀峯南ハ宇治路。西ハ老山。北ハ長坂

口等ニ。連々大將ヲ遣テ破レシニ。故入道殿

阿彌陀峯ニ向テ。諫防新比叡ノ前ニテ。戰有

テ追拂給ヒシ時。左ノ肩先ヲ射レ給ヒキ。其

二三日有テ。又四宮河原ニ勢ヲ向ラレケル

ニ。重テ故入道殿向ハレシカバ。鎧ノ射向ノ

袖ヲ解テ向給ヒシニ。先坂口ニハ。仁木右馬

助義長。今右京大夫ナリ。三井路。巡地藏ニハ。

故殿向口給ヒシニ。義長カ云今日ハ不逆ツ
クノ戦ナルベシト云ケレバ。故殿勿論ト返
事アリキ。終日兩所合戦ニ。仁木ガ手退ク間
相坂ノ手ヨリ。伊勢國愛曾按愛曾其人氏也ト云大
加ノ者。只一騎後ヨリ來ケルヲ。前ノ戦ノ隙
十サニ。是ヲ知給ハズ。故殿ノ御跡ニ磬ラレ
タル。安藝入道殿ノ頭。盛ノ鏝ヲ切落シケレ
ハ。落馬ナリ。並テ控ヘタル。範氏前見ノ三十六

指タル大征矢ヲ拂切ニシテケリ。其時故殿
馬ヲ立直シテ。先太刀ヲセラレシニ。愛曾兜
鏝ノ鉢ヲ割レテ。馬ノ平首ニヒラミテ太刀
ニテ拂ケルニ。左ノ御籠手ノ二ノ板ヲ切テ。
前ナル敵ノ中ニ分入ニケリ。其時此戦モ止
ケルナリ。彼故殿ノ家人殿村平三ト云者。愛
曾ガ知音ニテ。此曹ノ鉢ト半首ヲ取出シテ
見セテ。今川殿ハ何ナル劍ヲ持給ヒテカ。隨

分某カ試タル。曾ト半首ヲ割給ヒテ。鉢卷切
テ頭ニ少シ創ヲ被リキ。眼暗成シカバ引退
シト語キ。フレヨリ此太刀ヲハハ王ト名給
ヒシ也。ハヲ二重タル故ナリトコソ仰セラ
レシガ。此太刀モ籠手モ。故總州按範氏也所望シ
テ今相傳也。太刀ハ國吉ガ作ナリ。

細川今川異見事

建武四年ニ。駿河國手越河原ノ戰ニ。御方打

負シニ。錦小路殿御討死有ベキ由ヲ細川卿

房按定禪見前勸申候間。淵邊ト云御年來ノ人申

シテ云。先御先ニ討死仕ルベシト。唯一騎大

勢ノ中ニ馳入テ討レキ。御方續ニ不及。今川

名兒耶三郎入道此時討死ナリ。故入道殿申

サレケルハ。是ハ御討死ノ壺ニ非ズ。御退キ

有テ。御方ヲ圓ラレテ。後日ノ御合戦目出タ

カルベキノ由申シテ。御馬ノ口ヲ押返シケ

レバ。御馬回ノ人。一同ニ御馬戻ヲ打テ授
 セ申シケリ。昏ク成ケレバ。故殿バカリ留ラ
 レシカドモ。敵馳懸ガリケレバ。夜ニ入テ。御
 跡ヨリ興津宿ニ追付申サレケリ。其後九州
 御退ノ時。按ニ手越河原合戦。建武二年十二月。九州退陣。同三年二月。今以爲手越
河原合戦四年。九州退陣。其後也。四字轉寫誤
乎。四年。南北朝已分。北京。光明帝時。南朝。延元
二年。兵庫魚御堂ト云所ニテ。皆腹切ノ著倒
 付ラレシニ。細川卿房ハ。唯御船ニ召ルベシ

ト申シ行ケリ。故入道殿ハ。是ニテ御腹召ル
 ヘシト張行申シケリ。此事ヲ後日ニ錦小路
 殿ノ常ニ御物語アリシハ。此二个度ハ既ニ
 早御先途ト思召定シヲ。兩人ノ異見後合十
 リキ。好武者ノ心ハ同カルベシト思フニ。此
 違目ハ今ニ不審也ト仰有シナリ。此事撫ハ
 殊更隱ナキ間。太平記ニモ申シ入度存スル
 事ナリ。若去御沙汰ヤトテ令註シ附スル者

也

今川頼國討死事

附基氏子共事

式部大輔入道殿號三郎頼國按今川基事中

先代按建武二年相模入道平高時子時行

也代合戰ノ時海道ノ大將トシテ京都ヨリ下

向遠江國佐夜中山ニテ先代ノ大將名越按

先代大將名越越式部大輔云者ヲ討取テ相模國湯本ニ

テ海道ノ敵要害ヲ構テ支ケル間北山ニ打

上テ式部入道殿ノ手勢計ニテ落レテ敵ノ

大勢ノ中ニ馳入レシカバ追破レキ今此難

所ヲ見ニ去ニ人馬ノ可通道ナラス一谷ヨ

リ峻キ巖崎ヲ五町許乎落レキ二條殿ヨリ

賜ラレケル松風ト云名馬ノ荒馬ニ騎給ヒ

ケリ馬尻足ノハヒス子ノ皮皆破ケルトカ

ヤ偕相模川ニテ亦大水ノ時分ニテ敵支ケ

ルヲ上下ノ渡ハ佐木判官入道按道以下

渡レケリ。中ノ手殊更強カリシヲ渡レシカ
バ。河中ニテ人馬共ニ射殺レテ討レ給ヒキ。
今川三郎ト云シモ河端ト云シ人モ一所ニ
テ討レキ。式部入道殿ハ矢二十八カリ立夕
リケリ。故殿ハ大御所ノ御供ニテ。此戰ニハ
迦給ヒシカバ。後日ニ河底ヨリ此處骸ヲ取
出サレケルナリ。餘ニ進疾人ニテ御座シ故
ニ懸ル難所ニテ凶給ケルニヤ。此子ニ駿河

守カミ于シ時トキ掃ハク賴ヨリ貞サダ同ニ三ミ河カハ守ヲ于シ時トキ式シキ賴ヨリ兼カミ同ニ七シチ郎ヲ
見ミ世ヨ同ニ宮ミヤ内ウチ少オホ輔サヘ等ナリ云イハシモ。遁ニ世ヨシテ失ウシニキ。
刑ケツ部ブ少オホ輔サヘ殿ノ範ノリ滿ミツ按アテハ。同時ニ武ム藏サウ國クニ小コ手テ指サシ
原ハラニテ討ウチレ給タマヒキ。重病ニナリシヲ馬ウマニ搔カキ乘ノリ
ラレテ。力チカラ革カバニ兩ニ足アシヲ結ムス付ケサセラレケルト
カヤ。股ムネヲ切キ落オチレ給タマヒキ。酒サカ田タ左サ衛ヱ門カドト云イハシ
家ケ人ニ首カビヲ取トセラレキ。此コノ跡アト無ナリシカバ。賴ヨリ
兼カミ舍ヤ弟テイ七シチ郎ヲ養ヤシセラレシカトモ。早ハヤ世ヨノ間

難水記

跡絶シ也。佛滿禪師ト申ハ。四郎ニ當給ヒシ

ナリ。建長寺圓覺寺ノ前住也。按基氏子佛滿禪師諱法所號

大喜嗣法大平和尚貞和五年九月廿四日寂歳五十三。圓覺寺續燈菴元祖也故殿

ハ。前代ノ時一天下出家按前代主平高時才四歳剃髮號崇鑑

ニケル時二十三ニテ出家シ給ヒケルニヤ。

按今川範國永仁五年生元應元年剃髮號心省見前何ナリシ事ゾヤ。

基氏世祖御在世ヨリ。故入道殿ヲバ兄弟弟

ノ中ニハ一跡相續スベシト仰セラレケリ。

香雲院殿ノ語給ヒシナリ。御童名ハ松丸。五

郎範國ト申シキ。經國按號俊氏ナド云シ人

ハ。皆基氏ノ御舍弟等ナリ。今關口入野木

田ノ人トノ祖父ト云也。

難水記



